

参加無料

Hiroshima 2018

小児がん AIフォーラム in 広島

(第11回 小児がん・脳腫瘍全国大会 2日目) 平成30年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

2018年 7月29日(日) 広島国際会議場

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/>
〒730-0811 広島県広島市中区中島町1-5

AI（人工知能）が私たちの生活にも身近な存在になってきました！

あと数年もすれば今のスマートホンと同じように誰でも何らかのAIやIoT（モノのインターネット）を利用することになるでしょう。

そこで今年の大会では、小児がん経験者（サバイバー）と家族のQOL向上のために、どのようにAI・IoTを役立てられるだろうか？を専門家を交えて考えたいと思います。皆様のご参加を、お待ちしております。

開催予定プログラム

AYA世代の苦悩と未来への思い、僕の場合

小児脳腫瘍経験者・白血病経験者・白血病移植経験者の発表

晩期合併症とともに生きるわが子へ、親の願い

家族の発表

学校で進む合理的配慮とICTの活用

丹羽 登氏（関西学院大学 教育学部 教授）

「一人暮らし」や「移動の自立」を支援するAI・IoT ～イヤホン型ウェアラブル・コンピュータとは～

谷口 和弘氏（広島市立大学大学院 情報科学研究科 講師）

AIが拓く数年後の世界 ～サバイバーの生活を支え拓げる、あんなこと、こんなこと～

日浦 慎作氏（広島市立大学大学院 情報科学研究科 教授）

パネルディスカッション

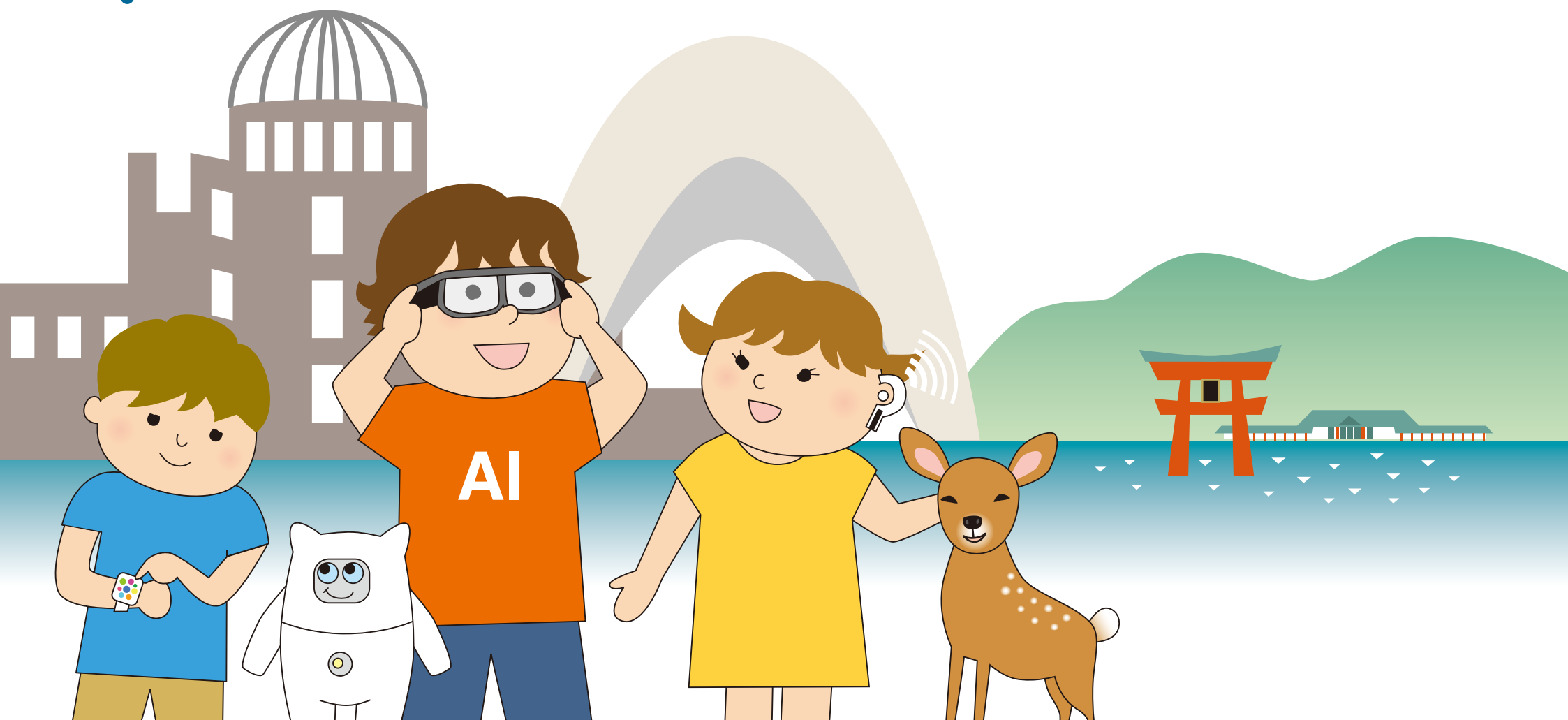
AIはサバイバーの活躍を支援できるか？

晩期合併症を有する小児・AYA世代のがん経験者の「自立と活躍」に、AIがどのように役立てられるかを展望し、当事者家族を交えて意見交換します。

進行役 安道 照子（エスビューロー代表理事）、長澤 正敏（エスビューロー事務局長／中小企業診断士）

パネリスト

原 純一氏（大阪市立総合医療センター 副院長 兼 小児医療センター長）、一戸 辰夫氏（広島大学原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科研究分野 教授）、丹羽 登氏（関西学院大学 教育学部 教授）、谷口 和弘氏（広島市立大学大学院 情報科学研究科 講師）、日浦 慎作氏（広島市立大学大学院 情報科学研究科 教授）



大会運営事務局（お問い合わせ先）

特定非営利活動法人 エスビューロー

エスビューロー

検索

ポスター、パンフレット（作成中）送付希望の方は下記へ電話、もしくはメールにてお知らせください。

ホームページ：www.es-bureau.org TEL&FAX：072-622-6730 E-mail：esbureau@hcn.zaq.ne.jp 〒567-0046 大阪府茨木市南春日丘7丁目5番8号（大阪大学医学部附属病院前）

主催：NPO 法人

エスビューロー

共催（今年度WAM事業連携団体）：地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター、広島大学原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科研究分野、

東京慈恵会医科大学 脳神経外科学研究室、NPO 法人 エスユース（小児がん当事者団体）